

予 算 要 求 資 料

令和３年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 収集管理費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県博物館 総務部管理調整 電話番号：0575-28-3111（内 250）

E-mail：c21804@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 709 千円（前年度予算額：775 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	775	0	0	0	0	0	120	0	655
要求額	709	0	0	0	0	0	120	0	589
決定額	709	0	0	0	0	0	120	0	589

2 要求内容

(１) 要求の趣旨（現状と課題）

博物館として収蔵するにふさわしい資料の調査研究、収集管理、補修、整理、分類を進め、その充実を図ります。得られた成果は常設展示や企画展を通して公開します。

(２) 事業内容

(ア) 調査研究

○人文分野

美濃、飛騨地方の歴史と文化について、美術工芸、考古、民俗及び歴史の各分野で調査研究を実施します。

○自然分野

岐阜県内を中心に、化石、岩石・鉱物、動物及び植物の各分野で総合的に調査研究を実施します。

(イ) 資料収集及び管理

○人文分野

美濃、飛騨地方の歴史と文化について、美術工芸、考古、民俗及び歴

史の各分野で調査研究を実施し、貴重な資料の収集、製作及び修復を行います（通年）。

○自然分野

県外内の化石、岩石・鉱物、動植物などについて、総合的に調査研究を実施し、貴重な資料の収集、製作及び修復を行います（通年）。

（ウ）博物館資料収集委員会の開催

当館の収集する資料の選定及び評価を適正かつ円滑に行うために委員会を開催する。

（３）県負担・補助率の考え方

県単独事業として実施

（４）類似事業の有無

無

３ 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	74	博物館資料収集委員の人件費
旅費	115	資料調査指導者旅費、資料同定指導講師旅費、調査旅費等
需用費	324	資料保管用消耗品等
役務費	196	輸送費、郵便、電話代、廃アルコール等処分手数料
合計	709	

決定額の考え方

４ 参考事項

（１）各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

３ 地域にあふれる魅力と活力づくり

（１）地域の魅力の意創造・伝承・発信

①「清流の国ぎふ」文化・芸術の創造・伝承

○ 伝統文化の担い手の育成・確保など次世代に文化をつなぐ取り組みを充実するとともに、新たな才能の発掘と育成を推進する。

（社会教育施設（県 美術館・ 県 博物館等 の活用））

・ 県の自然、歴史、伝統、文化、技を積極的に発信するため、博物館機能を（全県展開する。）強化する

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

地域の自然、歴史、伝統、文化、景観などの「ふるさとの財産」を保護・保全するために調査研究を実施し、これに関わる資料を収集・管理します。また、得られた成果は常設展や企画展で紹介し、県民のみなさまに故郷の素晴らしさを伝えます。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目 標	達成率
収蔵資料数（件数）	125,200 (H24)	132,239 (H29)	135,856 (H30)	139,402 (R1)	149,000 (R6)	93.56%

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

（1）調査研究

○郷土の自然や文化について、総合的に調査研究を実施します（通年）。

（2）資料収集及び管理

○郷土の自然や文化について、貴重な資料の収集・製作及び修復を行います（通年）。

（3）企画展開催

○自然分野

企画展「ヒアリがやってくる」を開催しました。

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

当館では、これまでに13万件を超える資料を収蔵しています。新資料データベースの完成に伴い、今年度は収集した資料を精査したのち、着実に登録作業を進め、2年3月現在で139,402件に達しています。また、現時点（2年7月時点）で調査中の資料が約30,000件以上あり、今後、調査研究と必要な修復等を進め、収蔵資料件数をさらに増やしていきます。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価) ○	多分野に渡る郷土の貴重な資料の散逸を防ぐためにも、総合博物館として公的機関が事業に関与する必要性は極めて高い。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	郷土の文化、自然に関わる資料の調査研究を通して、価値の高い資料を着実に収集している。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	
(評価) ○	十分に練られた計画のもと、無駄のない調査研究・資料収集を行い、必要最小限の経費で企画展を開催している。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 郷土の文化遺産は人文・自然分野とも多岐に渡るため、効率的な資料収集計画を策定するとともに、綿密な調査と収集する資料を厳選する必要があります。また、収蔵スペースの拡大に向けて、館内スペースの活用を検討します。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 郷土の価値ある資料の保全・保護は博物館としての使命であり、今後も継続的な調査研究と資料収集が欠かせません。また、効率的に高い成果を得るために、県内外の博物館施設等と連携して調査研究を実施する必要があります。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	<div></div>
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	<div></div>

【〇〇課】